



## さくら便り

40号

令和5年3月

2月1日、月初めの境川堤ごみ拾いをしました。相変わらずのごみの量でした。ポイ捨てる人がまだ多いようです。今月は桜の開花月です。予想では3月17日頃と云われています。暖ったかくなると伴に桜が花を付ける、何とも良い季節の到来です。

(散歩の友) 今回は近隣の城・砦跡と美濃・尾張国の関係についてご紹介します。城・砦は攻めにくい所で重要な所に築かれるのが常です。そのため山・川が利用されます。この辺りは木曾川を中心に城・砦が多く築かれました。まずは以前に紹介しました三井山城です。濃尾平野の先端の山で標高は108m余りで堅固な城と云えませんが、南に旧木曾川が流れていましたので築城されたのも頷けます。築城時期は1482年で1548年には織田信秀(信長の父)に攻められ落城しています。次に高田砦です。この砦も南に旧木曾川の本流が流れていて、美濃を支配していた土岐氏が築いたと云われています。この砦で稲葉一鉄(斎藤道三家臣)が「織田信秀の軍を撃退した」とありますから、ここが国の境だったようです。土岐氏が東濃から移って築いた長森城も南に旧木曾川が流れていました。又、「稲葉山(金華山)南方一帯の滞留水を境川に落としていた」とあることと、「切通」の名前が残っている事から、この辺りは切通しがあつて防御壁をなしていたと思われれます。伏屋(岐南町)にも城が築かれています。伏屋城は信長の命で木下藤吉郎(豊臣秀吉)が築いたとあることから、この辺りは尾張領であったようです。又、木瀬(三宅)・食(食印)に渡しがあつたと云われていますので、旧木曾川が流れていたと推測されます。長森城が手狭になったため、土岐氏が移した革手城(済美高校周辺)も西に荒田川、東に旧木曾川が流れ防御の役割を果たしていたと思われれます。このように近隣の城・砦は旧木曾川を挟んで尾張国と対峙していたようです。1586年の大洪水によって木曾川が今の河道となる前は、前渡より西北に流れ、中屋・芋島・中島を経て境川と合流し、高田・蔵前・切通・細畑・領下を経て南下し、食印・茜部・柳津方面に流れていたと思われれます。この河道が美濃・尾張国の境をなしていたようです。しかしこの辺りは幾筋にも木曾川の分流が流れていて洪水によって河道が変わるため、領有ははっきりしなかったのでは。河田渡河戦(1600年関ヶ原の前哨戦)では新加納と米野に美濃の兵を配したとあることから、木曾川は現在の河道になっていました。以上の事は私見でありますし、文章が拙い事ご容赦ください。

さくらを愛する会